

文化



少年闘争部の案内で西瀬ねた小野田さ
ラジル沖縄へんお世活八月にベル
るさじは年を立たせたい。小糸田
ラジルには多いので、激勵して、牧場も暗ね
していた。

「さういふ事は、おまえの心配だ。おまえが心配する事は、おまえの心事だ。おまえの心事は、おまえの心事だ。」
「おまえの心事は、おまえの心事だ。」
「おまえの心事は、おまえの心事だ。」

1974年3月、戦後30
間もフィリピン・ルバ
島のジャングルで「戦い

沈黙に向き合う 沖縄戦聞き取り47年

26

フィリピンへ向かう途中、沖縄に不時着したことを話す
小野田寛郎氏の記事（琉球新報、1981年5月6日付夕刊）

直後、日本軍の軍服姿で敬礼している元少尉の映像が、まるで真っ暗間に日本兵の亡靈でもみたかのように、多くの人の脳裏に焼きついているはずだ。

与那國島

「中野学校出身」明かす
ベトナムでの活動証言

後、日本軍の軍服姿で敬正在している元少尉の映像。繩本島に住むようになつた、などと私が全く知らない頃のことだ。与那国島にもまるで真っ脣間に日本い「密貿易（闇取引）」ということばをしばしば耳にするようになった。そこで台湾・香港との密貿易の中、島は難民を世話することが継基地だったという与那国島に調査へ出向いた。そのできたというエピソードが、悉くうついていた。

私はその行を目にして、密貿易の聞き取り調査へ前で、天も看もこまないが、

民謡で有名なナンタ浜近くの旅館に泊まつた時の、
とある。調査旅行で島々を訪れると、宿にその島關係の本が置かれている場合

繩本島に住むようになつた。なぜ私が全く知らない「密貿易（闇取引）」といふことはをしばしば耳にするようになった。そこで、台湾・香港との密貿易の中継基地だったという与那国島に調査へ出向いた。そのとき、小野田元少尉の話に出てあうことになつたのである。

私は、「この日本最西南端
「中野は語らず」
頃のことだ。与那国島にも
ベトナム難民船が漂着した
時、島には唯一ベトナム語
が話せる人がいたので、島
人は難民を世話をすることが
できたというエピソード
が、添えていた。
私はその行を目にするや
や、密貿易の聞き取り調査
の前に、矢も盾もたまらず
このかたから聞き取りした
ところには、本名と職業も書
くなつた。その写真集の中

S・Kさんが、出生地の鹿児島で「工業学校」へ進学したということを話した時、そこで私は、内心「陸軍軍人」の私との間にたちまち「信頼関係（ラ・ポール）」が生まれていく。「生活史法」調査のフィールドワークには自然に身についていくことである。

ベトナムで暗躍中、小野田さんが沖縄にいることを自分で組み立てた通信機で知つたということは話がグラマックスに達したのみだつた。

ベトナムでの活動証言

する人でも、幼年時代から
知りたいという熱意が相手
の素性とスパイ映画のような
アジア各地での活動を初め
て、何でもお聞きください。

「中野学校出身」明かす

暮らしなど記憶のある幼少期からどのような環境のもとに育つていったのかを尋ねて中野学校出身だといふ身分を明かし、「中野は語らず」の内容を語りだした。

沖縄と軍謀報機関

・Kさんは妻と二人暮らしだった。私は、沖縄国際大学の教員をしていて、島々で「生活史」の聞き取り調査をしていることを告げた。「ベトナム難民の世話をされた」ということで訪ねてきた」というのは、最後の「決め手」としてとつておこうとしたことは言うまでもない。

いつものように、いつ、どこで、うまれたのか、そ

こで、もづいてどんどん質問を続けていった。兵役について聞くのは自然の成り行きだ。すると、中国大陆へ赴いたということだった。戦闘部隊ではなかつたというとぼを引き出したので、そこで「いよいよだ」と思い、いきなり、「特務機関員として行かれたのですね」と、さりげなく切り出した。「なぜ、それが分かったのか」と、驚いたふ